



《こども版》 としょかんだより No. 330

2012年

# わくわく本だな

## 2月号

富山市立図書館

### 今月のおすすめ



★ = 1・2年

★★ = 3・4年

★★★ = 5・6年

—あたらしうはいつた本の中から、おすすめの本をしようかいます—

#### 「トラのじゅうたんになりたかつたトラ」 (えほん)

ジェラルド・ローズ／作 岩波書店



むかし、インドにやせたトラがいました。いつもおしろで、王さまたちがごちそうを食べているのをうらやましく見ていました。なかまにはいりたいと思つていたある日、おしろにほしてあるトラの毛皮を見て、あることをひらめきます。

#### 「とびだせ！そら組レスキューたい」 ★

田部 智子／作 岩崎書店



学校のとりごやからネコのこえが聞こえました。どうやら、とりごやのすきまにねこがおちたようです。さっそく、コータとともにちは、ネコをたすけるために“レスキューたい”をつくり、ひもやエサをもってあつまることにしました。

#### 「パパはバードマン」 ★★

デイヴィッド・アーモンド／作 フレーベル館

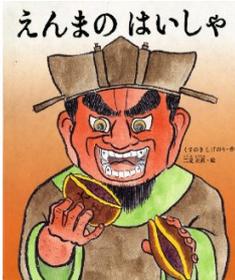


リジーのパパが、鳥人間コンテストに出場すると言ひ出します。鳥の羽や布をくつつけたつばさと、信じる心があれば飛べる、と言ひうパパ。はじめは反対していつたリジーですが、きれいな鳥の羽を見ているうちに、自分も飛んでみたくなりました。

# あたらしくはいった本

## えほん

### 「えんまのはいしゃ」



くすのき しげのり／作 偕成社

ここは、じごくのいりぐち。生きている時<sup>とき</sup>にいいかげんなちりょうをしていたはいしゃが、えんまさまにおこられています。じごくにおちたくないはいしゃは、じぶんのちりょうはいたくないとほらをふいて、おにのむしばのちりょうをはじめました。

## ものがたり

### 「またおいで」 ★ もりやま みやこ／作 あかね書房

キツネの子は、こうえんでないウサギの子を見かけました。こえをかけると「お父さんをま<sup>ま</sup>っている。」というのです。それを聞いたキツネの子は、自分もるすばん<sup>ころ</sup>をして心ぼそ<sup>たいせつ</sup>かったことを思い出し、大切なハンカチをかしてあげました。



### 「ともだちまねきねこ」 ★★ 松本 聡美／作 国土社



槇雄<sup>まきお</sup>は、おばあちゃんが書いたクッキングノートを見つけます。大好きな青葉ちゃんといっしょに作ろうと思い、会いたい人をまねいてくれるというふしぎな“まねきねこ”におねがいしました。ところが、やってきたのは、いじめっ子<sup>おおば</sup>の大場くんでした。

### 「ギッチャんの飛んでくる空」 ★★ 幸原 みのり／作 佼成出版社

学校へわすれもの<sup>と</sup>をとりにいった万里<sup>まり</sup>と秀介<sup>しゅうすけ</sup>は、中庭できれいなシラサギを見つけます。学校が休みの日にだけ来ることを知り、毎週、会えるのを<sup>たの</sup>楽しみにしていました。ところが、ある事件<sup>じけん</sup>をきっかけに<sup>と</sup>来なくなってしまう、2人はさがしに行くことにします。



## ものがたり

### 「アンガスとセイディー 農場の子犬物語」 ★★★

シンシア・ヴォイト／作 小峰書店



子犬のアンガスとセイディーは、農場にもらわれてきました。2ひきは、羊を集めたり番犬をしたりするため、ご主人にトレーニングをしてもらいます。アンガスは、すぐに「すわれ」や「まで」を覚えましたが、セイディーはうまく出来ません。

### 「「リベンジする」とあいつは言った」 ★★★

朝比奈 蓉子／作 ポプラ社

直人は、同級生たちと、転校生の江本をからかい骨折させてしまいました。一人で病院へ見舞いに行った直人は、「必ず、リベンジする。」と言われます。それから直人は、マンガやアイスを買わされたり、夏休み中毎日、犬の散歩をするよう命令されます。



## ちしきの本

### 「オガサワラオオコウモリ森をつくる」

有川 美紀子／作 小峰書店



小笠原諸島にすむオガサワラオオコウモリは、つばさを広げると1メートル以上もあります。むかしはたくさんいたオオコウモリも、今では300頭ほどしかいません。ぜつめつさせないためにも、コウモリの暮らしを知り、ともに生きていく工夫がひつようです。

### 「名画で遊ぶ あそびじゅつ！」

エリザベート・ド・ランビリー／作 長崎出版

1まいの絵をながめてから、ディテール（細かい部分）を見てみましょう。たとえば、モネという画家の「昼食」という作品には、ちぎったパン、黒いリボンなどを見つけることができます。ディテールを見ると、名画をより楽しむことができます。



# こんげつのとくしゅう

## おにの本

2月3日は、<sup>せつぶん</sup>節分ですね。  
おにが登場する本をしょうかいします。



「<sup>おに くびひ</sup>鬼の首引き」 (えほん) 岩城 範枝／作 福音館書店

力もちのわかものが、おにのむすめにたべられそうになり、力くらべをします。

「おにの赤べえ」 ★ 寺村 輝夫／作 理論社

体が小さく、大人のなかまいりができないちびおには、<sup>にんげん</sup>人間の村へ行くことにしました。

「ゆうきのおにたいじ」 ★★ 征矢 清／作 福音館書店

山でゆうきは、おににお弁当の入ったリュックサックをとられてしまいます。

「<sup>ずかん</sup>オニの生活図鑑」 (ちしきの本) ヒサ クニヒコ／作 国土社

<sup>あたま つの</sup>頭に角をはやし、手にかなぼう。おにたちはどんな生活をしていたのでしょうか。

## シリーズしょうかい



「<sup>もりびと</sup>守り人」シリーズ 全9冊 (ものがたり) ★★★

上橋 菜穂子／作 偕成社

人と<sup>せいれい</sup>精霊がまじりあう世界で、女用心棒の<sup>ようじんぼう</sup>バルサが<sup>かつやく</sup>活躍する読みごたえのある<sup>ちやうへん</sup>長編ファンタジーです。シリーズを解説したガイドブック『守り人のすべて』も出版されています。

### 「<sup>せいれい</sup>精霊の守り人」

バルサは、偶然、新ヨゴ皇国の皇子チャグムを助けました。そして、この皇子におそろしいモノがやどっていることを知ります。

### 「<sup>やみ</sup>闇の守り人」

久しぶりにバルサは、生まれ故郷のカンバル国に戻ります。そこでは、<sup>ようふ</sup>養父のジグロが、国宝を盗んだという汚名を着せられていました。

### 「天と地の守り人」

#### <第1部>

チャグムが死んだといううわさを聞いたバルサ。きっと、どこかで生きてっていると信じ、<sup>さが</sup>探し出すためにロタ王国へと向かいます。

< 編集・発行 >

富山市立図書館

富山市丸の内1丁目4-50

電話 076-432-7273